

心身相関を踏まえた薬学研究と産業衛生での成果のご紹介

関山敦生

大阪大学大学院薬学研究科 創成薬学専攻 先制心身医薬学寄附講座

抄録本文

健康長寿の実現は医学薬学の宿願である。生活習慣病は、その実現を妨げる主要な疾患群の呼称と見なせるが、発症および増悪因子に関する臨床研究により、精神的ストレスやうつ病罹患経験がリスクファクターであることが示されてきた。

我々は、うつ病や統合失調症に対し、生体ホメオスタシスや炎症制御の破綻という観点から病態研究を進め、また血液など罹患者由来の検体に対する解析も行ってきた。その成果の一部として、ストレス負荷時には免疫応答では生じない分泌経路によってサイトカインが分泌されること、また、面談以外の有力な判定評価法がなかったうつ病、統合失調症、精神的ストレスを血中サイトカイン濃度で判定評価できることを示した。

サイトカインは炎症や生体ホメオスタシスの主要な制御分子であり、免疫系や血液系の疾患のほか、生活習慣病の発症や増悪に深く関与することが多数の研究で示されている。

これらの事実から、精神的ストレスや抑うつ気分に対して、脳や行動に影響を及ぼすのみならず、たとえばサイトカインを介して身体に影響を及ぼし、生活習慣病などを招来しやすい状態に導いている可能性が推定される。

本講演では、研究のフロンタインと社会実装例の一部をご紹介します、身体疾患の超早期診断の可能性、生活習慣に加えて精神衛生により身体疾患を回避制御できる可能性に触れ健康長寿のさらなる推進のためいま求められる研究開発について論じたいと思います。

略歴

- 1989年3月 防衛医科大学校卒業
- 1996年3月 大阪大学医学部大学院内科系（精神医学）修了 医学博士号 取得
- 1999年9月 スウェーデン王立カロリンスカ大学老年医学教室博士研究員
- 2002年5月 兵庫医科大学先端医学研究所 生体防御部門研究員
- 2005年4月 徳島大学ヘルスバイオサイエンス部（医学部）生体制御医学講座 講師
- 2007年4月 国立長寿医療センター研究所 生体防御研究室 室長
- 2008年9月 大阪市立大学大学院医学研究科 生化学・分子病態学教室 特任准教授
- 2012年4月 先端医療振興財団先端医療センター研究所 先制医療開発チームリーダー
- 2014年5月 現職